

24
25

 U-NEXT

 Premier
League



REPORT

サッカー試合解説レポート

MATCH

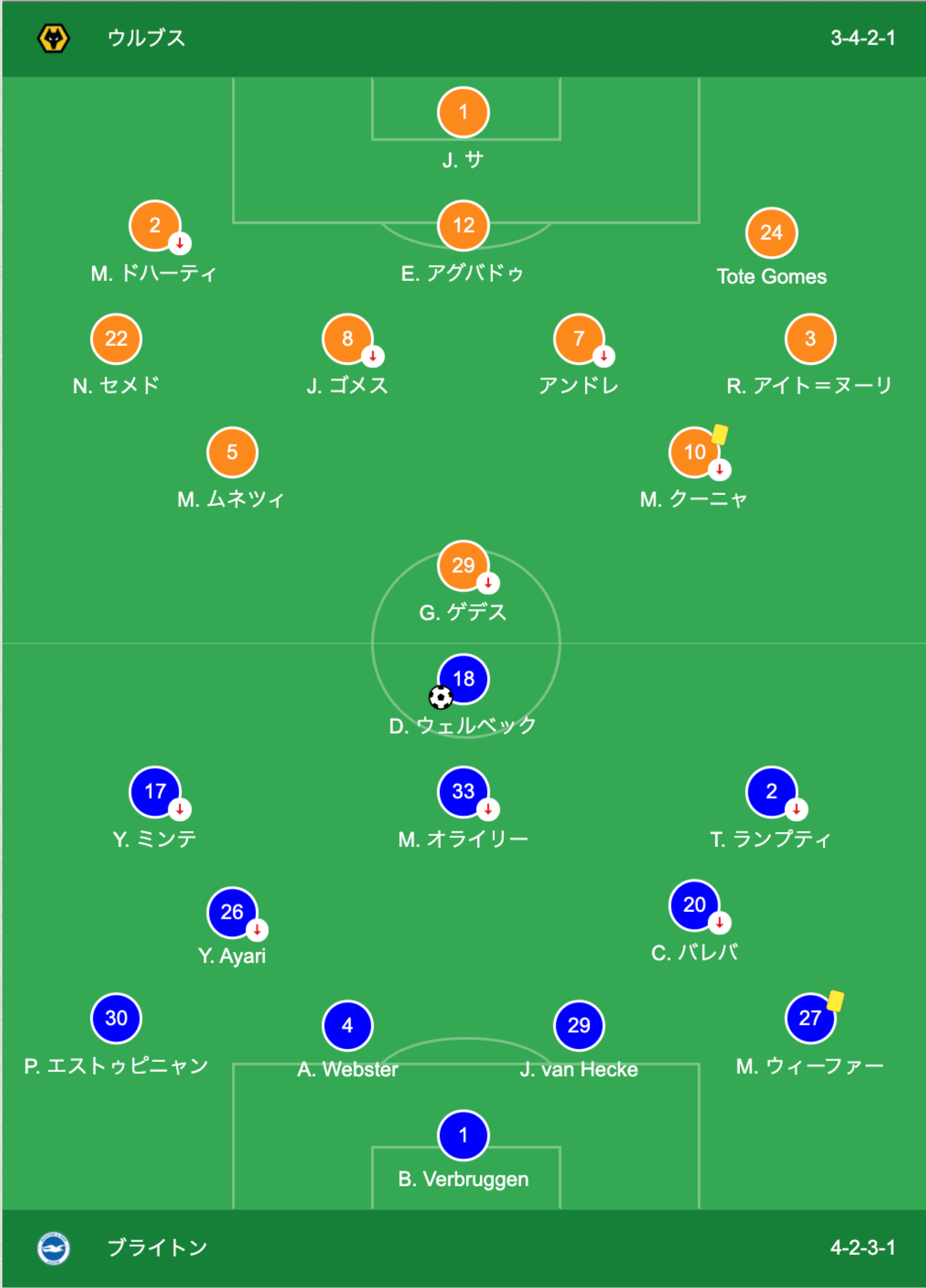
U-NEXT プレミアリーグ 【36】 0510_ウォルバーハンプトンVSブライトン

DATE

2025/05/10

NAME

田中裕介



MATCH REPORT

SCORE 0-2 (1st 0-1 2nd 0-1)

TOP3 point

- ・ボクシングのような激しい攻防の試合
- ・したたかに愚直に闘ったクリーンシートのシーガルズ
- ・素晴らしいカウタープレスと諸刃の剣のウルブス

Trivia of this match

- ・ウルブスで今季活躍中MFアンドレはJ・ゴメスと同じブラジルの著名代理人カルロス・レイチの担当選手。今後もSDマット・ホップスはこの路線の獲得を目指す可能性が高い。アンドレはFWラーセンと毎日一緒にいるほど仲が良い。
- ・ブライトンはオーナーT・ブルームの所有会社「Jamestown Analytics」の秘密主義的な分析システムを活用して選手獲得をしている（交渉はCEOのボール・バーバー主導）

(ウルブスの戦い方と試合展開)

前半：・基本システムはお馴染みの3-4-2-1。前線はゲデスを起用して最前線0トップ気味に配置する。

- ・立ち上がりは左サイドを中心に攻め込む。相手のプレス回避のためロングボールを使い侵入を試みる。しかし相手のマンツーマン守備に手を焼くシーンも。裏へのランニングも少ない。
- ・失点は軽率なミスから。自陣ビルドアップに参加したクーニャが後ろ向きのトラップを狙われてロスト。たまらず倒してPKを献上。PKを冷静に沈められて先制を許す。
- ・失点後は徐々にペースを握る。自陣からのビルドアップに人数を増やして（時にはトップのゲデスが落ちるシーンも）前進して相手陣地でのプレーが増える。
- ・前半の終盤は完全に押し込む。強烈なカウタープレスで相手に何もさせない守備を披露。何度かあったクロスからのチャンスは相手守備陣にうまく守られる（ゴール前の迫力はやや欠いた）

後半：・戦い方は変えずにゲームを進める。左サイドのクーニャやA＝ヌーリの連携を活かして攻め込むが相手DF・GKの攻守になかなか最後の扉を開けられない。

- ・60分に4人の選手交代でゲームを動かしに行く。9番S・ラーセンを入れてゴール前での決定力に期待する。
- ・右サイドにR・ゴメスとサラビアを配置して人数をかけて活性化させる。（ローテーションなども増えた）
- ・最後まで攻めに行くがなかなかこじ開けられず。終盤にゴール前を割られて失点。万事休す。

(ブライトンの戦い方と試合展開)

前半：・システムは4-2-3-1。CBにウェブスター、右WGにランプトゥィを久しぶりにスタメン起用。

- ・開始からプレスを開始。守備はマンツーマンを採用。相手のキーマンのクーニャには右SBヴィーフェル、A＝ヌーリにはランプトゥィを当てにいき自由を与えない。
- ・試合を通して相手3バックとGKの間に速いクロスを送り込むことを意識していた。
- ・先制点はPK。クーニャのトラップをうまく狙ったヴィーフェルがボールを奪取。　クーニャはすかさずファウルをしてしまいPK。ウェルベックが冷静に沈める（シーズン2桁得点到達）
- ・得点後はなかなかプレスがハマらず自陣に下がり押し込まれてピンチを招くがなんとか無失点で前半を終える。

後半：・相手の攻勢を受ける。危ないシーンはGKフェルブルッヘンとCBファン・ヘッケが素晴らしい対応で防ぐ。

- ・オープンな展開の中でも中盤の選手はハードワークを緩めずに守備のタスクを最優先に考えてプレーをする。
- ・アディングラ・グルダ・三苦・D・ゴメスを投入して守備の強度を落とさずに追加点を狙いに行く戦い方を選択。
- ・終盤に追加点。この日チャンスに顔を出していたグルダがスルーパスに抜け出してGKとの1-1を冷静に制してフィニッシュ。本人も涙する大きなゴールだった。

(総評) 前半はしたたかなブライトンが先手を奪う。守備ではマンツーマンをベースに自由にさせない。時間経過と共に激しいトランジションを遂行したウルブスペースに。支配率も大きく上回り前半を折り返す。

後半もウルブスが攻め込むがブライトン守備陣が集中力高く対応。最終的にボクシングのような撃ち合いを我慢したブライトンが追加点を奪い試合終了。どちらに転がってもおかしくない展開だった。

試合を分けたのはウルブスのエース、クーニャのボールロスト。彼のプレーが試合を左右することが多いがこの試合はボールロストが痛恨の結果を招いてしまった。